

令和5年度 国富町立森永小学校 学校評価書

4段階評価 【 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する 】

※本年度の重点目標（1 学力の向上 2 豊かな心の育成 3 健康な心身の育成 4 特色ある教育活動の展開）

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
学力の向上	1 主体的・対話的で深く学ぶ学習態度の育成 2 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット PC や I C T を活用し、授業改善を目指すことで、児童の学ぶ意欲を高めたり考えを広めたりすることができた。 ・問題集やデジタル学習サービス navima を活用するなど、森っ子タイムの内容を見直し、計画的に実施することで、個に応じた指導を継続的に行うことができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・画像や動画、音声を使用している ICT 教育によって、児童の学習意欲が高められている。 ・タブレットの段階的な持ち帰りにより、学習意欲が高まっていくことに期待したい。 ・誤りを振り返るデジタル学習サービスの活用は的確であると思われる。
	3 読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館職員による図書室の環境整備や読書活動の推進により、図書館利用の活性化につながった。 ・年間読書目標を設定し、記録カードを活用したり、多彩な読み聞かせを実施したりすることで、児童の読書意欲を高めることができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室に担当者の配置と共に、図書室が開放的に整えられていることによって、児童の読書意欲が高まっている。 ・親子読書が慣れてしまっているので少しフォーマットを変えてみてもよいかもしれない。 ・書棚の色などがカラフルで読書環境として居心地のよさを感じる。
	4 外国語活動の指導法の研究及び実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT を活用することで、外国語と日本語の音声の違いに気付いたり、外国の文化への関心を高めたりすることができた。 ・デジタル教科書の視聴覚教材を活用し、授業改善を目指すことで、児童が自分の考えを伝え合うことができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手による英語補助授業のより一層の充実を望む。 ・熟練の ALT であり、今後も効果的な活用をお願いしたい。
	5 家庭と連携した家庭学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習の七つの約束」の配付及び周知（参観日懇談会）、家庭学習チェック週間の実施を通して、家庭学習の習慣化が図られている。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習の七つの約束」「家庭学習チェック週間」は、児童の意識改革を促し、家庭学習の向上に繋がっている。 ・家庭学習について、子どもが家で宿題をやっていることは確認しても、高学年になるにつれ、家庭学習の内容を確認することが減ってきている。CRT 結果を見て、苦手な内容に気づくことがあった。 ・アンケートからも学習習慣が定着していることがうかがえる。なお一層の習慣化を進めてもらいたい。
	豊	1 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会で、廊下歩行と四つの無言の場について、児童が 		

かな心の育成		<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動する取組を行い、きまりを守って生活しようとする意識が高まった。 清掃を縦割り班で行うことで、学年間での交流を通して進んで活動できた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 組を行っていることが、きまりを守って生活しようとする意識の高まりに繋がっている。 主体的な取組を推奨することで、生活習慣の中での気付きを育ててほしい。
	2 望ましい人間関係を醸成するための指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 心のアンケートを毎月実施し、その後、教育相談を行うことで、児童の心に寄り添った指導を行ってきた。 いじめ事案の早期発見、全職員での対応を徹底し、再発防止に努めてきた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 心のアンケートの実施は、いじめや悩みを事前に察知することができ、有益な取組である。 悩みを抱えた児童が打ち明けやすい環境やシステムを構築できることを期待する。
	3 道徳教育推進による自尊感情の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 参観日は年1回必ず道徳の参観授業を実施し、保護者と連携した道徳教育の推進を行うことができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 善悪をわきまえ正しい行いをなすための道徳教育に期待する。 児童館の子供達や保護者の皆さんの様子から、道徳教育の効果が現れていると感じる。
	4 情報モラル教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> DQ ワールドに取り組み、インターネットトラブルを防ぐための、情報モラル教育が充実した。 児童用タブレットの持ち帰りの仕方について、職員間の共通理解を図り、高学年から段階的に学年を指定し持ち帰りを実施している。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 情報が真実か虚偽か、無害か有害かその判断はDQワールドの推進にかかっている。 情報モラル教育には万全を期してもらうように願う。
健康な心身の育成	1 体力向上プランによる基礎体力の向上 2 健康教育・安全教育の推進 3 食に関する指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストの結果をもとに、スクールスポーツプランの作成やサーキットトレーニング、元気タイムを実施した。 う歯治療の呼びかけを積極的に行い、治療率も上がってきたが、今後も啓発が必要である。 食育については栄養教諭や家庭と連携を図り、充実した指導を行うことができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童の体力の向上、健康教育、安全教育、食育は、基本的生活の根幹であり、その推進を望む。 歯の治療を行わないでいくと、大変な目に遭う事を伝えてあげるとよい。 若年層の間で競技スポーツからレクリエーション的なスポーツの比重が大きくなっていく中で、基礎体力の獲得を目指してほしい。
	4 家庭と連携した健全な生活態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童のメディアとの関わりについて家庭と連携しながら実態調査や啓発を行ってきた。家庭の協力もあり、メディアとの関わりを意識できる児童が増えてきた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> IT社会の中で生活していく基本的スキルを学校と家庭で連携して取り組んでいく事が必要不可欠である。 今後とも家庭と連携した啓発活動の継続をお願いする。
特色ある教育活動の展開	1 総合的な学習の時間の充実 2 伝統やふるさとのよさを生かした体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の影響により、地域人材や地域の施設の活用については、できた部分とできなかった部分があるが、少しずつ実施できるようになってきている。 伝統的な行事である「二番穂刈り」については、事前に出水市より講師を招いて講演会を開き、体験活動へとつなげることができた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症収束後、地域との交流が図られていることを実感する。 「二番穂刈り」等、伝統行事の継続を望む。 児童の皆さんが出水市を訪問できるようになるとよい。